

# ●第十一回新選組書展の課題について

## 課題① 「誠」

新選組の袖章や隊旗などに使われた、新選組を象徴する一文字。例年の課題です。

## 課題② 「右土方両君もよろ敷願上候」

今回の「候文」の課題は、平成三十年一月で没後百五十年となる井上源三郎が、兄の松五郎に宛てた書状(井上源三郎資料館所蔵)からの課題です。

書状は、八王子千人同心の任務で大坂(大阪)にいた松五郎が京都まで訪ねてきたのに、予定が合わずに会うことができなかったことを詫びるもので、追伸の部分で京都で無事に任務をこなしていることを伝えていきます。

課題は、その後ろに書かれている部分で、「それらの内容について、土方両君(土方歳三ともう一人)もよろしく伝えてくださいと言っています」という内容になります。「両君」の土方歳三以外の一人が誰なのかは書かれていませんが、師匠の近藤勇を指すとは考えにくく、井上家と縁戚関係にある沖田総司を指しているのかもしれない。

また、「よろ敷」とは「宜しく」のことで、江戸時代はしばしばこのように表記していました。

## 課題③ 「箱館」

第六回書展の「壬生」、第七回「鳥羽伏見」、第八回「勝沼」、第九回「流山」、第十回「会津」に続く、新選組ゆかりの地名シリーズの第六弾です。

慶応四年(一八六八年)一月の鳥羽伏見の戦いから始まった戊辰戦争の中で、新選組は勝沼流山、北関東、会津と転戦を続け、ついに同年冬、他の旧幕府軍とともに、蝦夷地(北海道)の箱館(函館)に集結し、最後の戦いを迎えることになりました。

翌明治二年(一八六九年)五月、新政府軍による箱館総攻撃が行われ、土方歳三は戦死し、その数日後に新選組は新政府軍に降伏、その歴史に幕を閉じることになりました。

「箱館」は、現在の函館のことで、江戸時代はこのように表記していました。



### 井上源三郎書状 大意

残暑の季節になりましたが、ご機嫌はいかがでしょうか。

さて、先月万福寺(京都)までわざわざ会いに来てくださいましたとのことでしたが、こちらはその際に予定が合わず、あなた様(松五郎)と面会することがなわず、大変残念なことでした。

また、御勤役(当時、八王子千人同心が長州征伐に伴う將軍上洛に従って大坂(大阪)で任務にあたっていたこと)を無事務められますようお願いしております。千人同心の皆様にもよろしくお伝えください。

また、関東からきた手紙の件などはいかがなっておりますでしょうか。少々お尋ねいたしたく存じます。

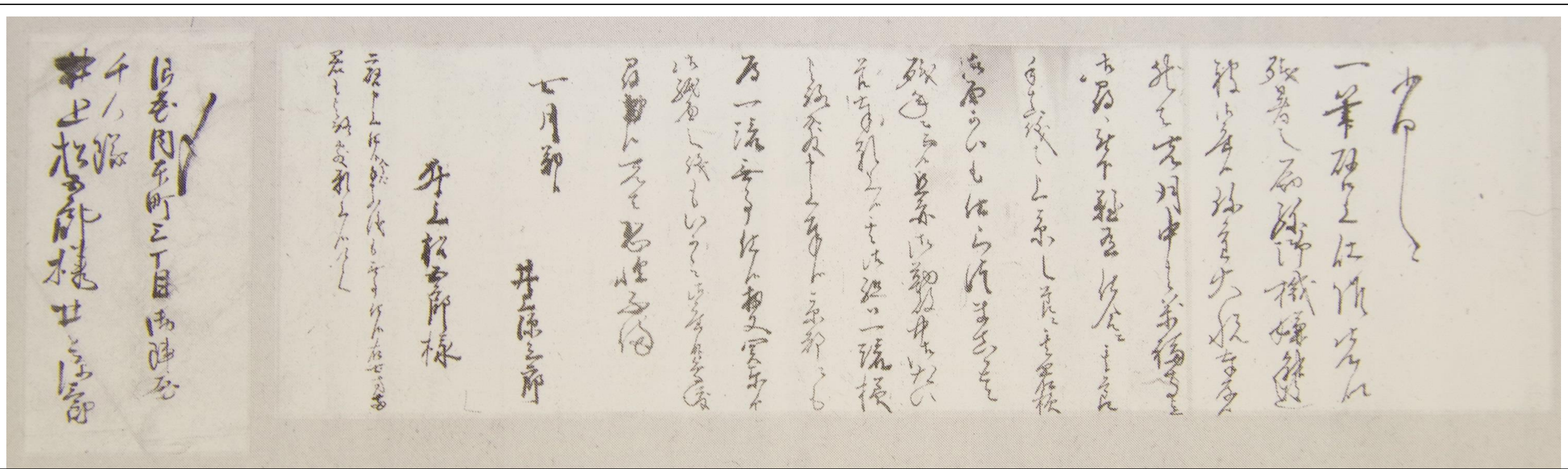
七月朔日(一日)

井上源三郎

井上松五郎様

なお、こちらは皆滞りなく過しております。

以上のことについて、土方君らも、よろしくお伝えくださいと申しております。



井上源三郎書状(慶応元年(1865年)7月・井上松五郎宛) 井上源三郎資料館所蔵